

## 平成 30 年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

生徒一人ひとりが、確かな学力と豊かな人間性を備え、高い志をもって、伸び伸びと高校生活を送ることのできる学校をめざします。

- 1 学業を第一として捉え、知識や技能の習得とともに、考える力、学ぶ意欲を育みます。
- 2 他者と協働する様々な活動を通して、主体性、協調性、自律性、社会に貢献する力を育みます。
- 3 自らの意思で行動し、夢の実現に向かって努力を継続する力を育みます。

## 2 中期的目標

## 1 学力向上と進路実現

(1) 教科指導を充実させ、生徒の学力を向上させる。

- ア 学習に向かう意識を向上させるとともに、授業見学、校内研修、授業アンケート等により継続的な授業改善を図り、生徒の学力向上に結びつける。
- イ 「魅力的な授業・わかる授業」を確実なものとし、さらに一歩進んで「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざす。

(2) 自学自習する力を育む。

- ア 家庭学習や補習・講習等の授業外学習に取り組む力を育成する。
- イ 読書活動を推進するとともに、様々な資格取得の機会を提供し、前向きに取り組む意欲を向上させる。

(3) 進路指導の充実に取り組む。

- ア 3年間を見通した系統的・継続的な進路指導を実践し、多様な進路希望に丁寧に対応する。
- イ 模擬試験や学力生活実態調査等を活用し、生徒の学力等の推移を把握して、時機を捉えた進路指導を行う。

※ 授業満足度 85%以上を維持 家庭学習をほとんどしない生徒 H29 44% → 2020年度 20%  
進路指導に対する肯定率 85%以上を維持

## 2 豊かな人間性の涵養

(1) 学校・地域において他者と協働する様々な活動を通じて人間性を育む。

- ア 体育祭、文化祭等の学校行事や部活動を通して、生徒に考え、行動させながら、主体性、協調性、自律性を育む。
- イ 地域の奉仕活動・交流活動、その他様々な発表の場面に積極的に参加させ、社会に貢献する力や自己肯定感を育む。

(2) 学校生活における規律を身に付けさせる。

- ア 全校的で効果的な生活指導・遅刻指導を行い、時間・規則を守る意識を育む。
- イ 保護者の協力を得ながら交通安全指導を行う。 ※ 部活動加入率 H29 65% → 2020年度 75%
- ウ 清掃指導を徹底し、環境美化に務めるとともに、落ち着いた学習環境を維持する。 遅刻者数 H29 1660人 → 2020年度 1490人

## 3 活力ある学校づくり

(1) 専門コース等の教育内容を一層充実させる。

- ア 国際交流の推進により、英語でのコミュニケーション能力の向上を図るとともに、国際的な視野を育む。
- イ 英語専門コースでは、英語力を鍛え、英語を専門的に研究・活用する学部・学科への進学の実現をめざす。
- ウ 理数専門コースでは、科学的な思考に基づいて問題解決にあたる力を身に付けさせるとともに、理系学部・学科への進学の実現をめざす。

(2) 新たな教育課題に対して全校的に取り組む。

- ア 新しい学習指導要領及び大学入学者選抜等の実施に関して、教科や分掌の垣根を越えて学校として取組みを進めていく。
- イ 業務の統合や会議の効率化などを図り、教職員の働き方改革を進めていく。

(3) 学校の教育活動の積極的な情報発信を行う。

- ア 学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の広報を充実させる。
- イ Web ページ、阜メール等により、学校情報を積極的に伝える。 ※ 学校説明会理解度 90%以上を維持

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [平成 30 年 12 月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員「学習指導方法の工夫・改善」82% (昨年 90%)、「講習・補習の実施」91% (93%) と、学力向上に力を尽くした。</li> <li>・生徒「授業以外の勉強時間 1 時間以上」40%、保護者「家庭でよく学習している」37%であり、家庭学習の定着が依然として本校の大きな課題である。</li> </ul> <p><b>【進路指導】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・進路指導への肯定的回答は、生徒 83%、保護者 76%、教員 82%と高いが、昨年に比べると数値的には低下している。今後も改善を図りながら、3年間を見通した系統的・継続的な指導を行っていく。</li> </ul> <p><b>【学校生活】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒は「部活動への積極的な取組み」61%だが、教員は「部活動は活発」36% (昨年 61%) と非常に危惧している。部活動のあり方についての検討が急務。</li> </ul> <p><b>【保護者対応】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者「相談への適切な対応」86%、「本校の教育は全般的に満足」81%と高い。保護者との連携も含め、今後も一層の充実に努めていく。</li> </ul>	<p>第 1 回 (7/9)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「主体的で深い学び」の研究のために、研修会への参加などを行うべき。</li> <li>・現状維持も大切だが、新たなチャレンジをすることも必要ではないか。</li> <li>・結果の数値だけでなく、アプローチの方法について共通認識をもち、具体的なプロセスを共有してはどうか。</li> </ul> <p>第 2 回 (10/29)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業を見学し、1 学級 40 人は窮屈そうに見えたが、楽しそうであった。</li> <li>・生徒の身だしなみは整っており、しっかり指導されていると感じた。</li> <li>・緊急連絡体制の確立は急務。災害時の安否確認方法には、メールを利用した双方向的なものなどいろいろな方法があるので、是非 検討を。</li> </ul> <p>第 3 回 (1/21)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教員「部活動は活発」が 36%とあるが、何をもち「活発」ととらえているのか。細かな分析・掘り下げをすれば、良さや問題点が浮き彫りになる。</li> <li>・どのような生徒を世に送り出すかをアピールしたい。各教科で学んだことを組み合わせてプレゼンテーションできる力は、「社会人基礎力」として重要。</li> </ul>

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学力向上と進路実現	(1) 教科指導の充実 ア 継続的な授業改善 イ「主体的・対話的で深い学び」の実現	ア・授業力向上チームを発足させる。 ・日常的に授業見学を行い、助言を積み重ねることにより、相互の授業改善に繋げる。 イ・校内研修授業及び研究協議、情報交換等により、「主体的・対話的で深い学び」の研究を進める。	ア・授業満足度 85%以上 (H29 88%) ・授業見学 2.5回/人 (H29 1回/人) イ・自己評価「学習形態等の工夫を行った」90% (H29 90%)	ア・生徒の授業満足度は86% (○) ・教員の授業見学回数は2.0回/人 (△) イ・授業力向上チームが中心となり、11月に校内研究授業・研究協議を実施。41名出席。 ・「学習形態等の工夫」は82% (△)であったが、教員の意識が向上し、生徒が教師役となって他の生徒に説明する場面の設定や、英語でのリベートの取り組みなどの工夫がみられた (○)
	(2) 自学自習する力の育成 ア 学習に向かう意識の向上 イ 読書活動の推進 ウ 資格取得の奨励	ア・適切に宿題・課題を出し、実行させることにより、家庭学習を習慣付ける。 ・充実した講習・補習を設け、積極的な参加を促し、目標達成に向けて努力させる。 イ・授業での活用や図書委員会の活動により、図書館に対する親近感を向上させる。 ウ・各種の検定の積極的な受験を促し、授業や講習を通して合格のための力を付ける。	ア・家庭学習0の生徒 30%以下 (H29 43%) ・講習・補習の延参加者 3000人以上 (H29 3400人) イ・図書館利用率 30%以上 (H29 30%) ウ・英検受験者数 80人以上 (H29 80人)	ア・「勉強1時間未満」生徒60% (昨年73%) (○) 意欲を育み、家庭学習を習慣付ける必要あり。 ・講習・補習参加者は延べ3047人 (○) 個々に適した講習・補習を継続していきたい。 イ・利用率は23% (△)であったが、図書紹介や読書マラソンなど図書委員会活動は活発 (○) ウ・英検104人、漢検1年生全員受験、パソコン検定3人。検定の受験が定着しつつある (◎)
	(3) 進路指導の充実 ア 3年間を見通した進路指導 イ 模擬試験や学力生活実態調査の活用	ア・1年次「職業理解」2年次「上級学校理解」3年次「進路実現」の目標に沿って、進路HRを中心に継続的な進路指導を行う。 イ・模擬試験等の実施前にガイダンス、実施後に分析会を行い、指導に生かす。	ア・進路指導に対する肯定率 85%以上 (H29 87%)	ア・肯定率は83% (△)であったが、模試の受験前にガイダンスを実施したり、応募前職場見学に必ず教員が付き添うなど、多様な進路希望に対し丁寧に対応できた (○) イ・3年対象に、模試結果返却後の分析会に加えて「模試前ガイダンス」を実施。また、2年全員に模試を実施し、進学意識の向上が見られた。
2 豊かな人間性の涵養	(1) 協働的活動を通じた人間性の育み ア 体育祭や文化祭等の学校行事の充実 イ 部活動の活性化 ウ 地域貢献	ア・体育祭や文化祭、HR活動を通して、リーダーを中心に生徒に考え行動させることにより、生徒の主体性を育む。 イ・新入生への入部の勧誘に一層取り組む。 ・3年間部活動を継続できるよう、充実した指導や丁寧な対応で生徒をサポートする。 ・部員による校内あいさつ運動を奨励し、学校の活性化に繋げる。 ウ・地域の奉仕活動及び交流活動 (地域清掃、SGS (スクール・ガード・サポート)、中学生との部活動交流、食育活動、地域活動への出場等)により、社会に貢献する力を育む。	ア・体育祭満足度 90%以上 (H29 93%) 文化祭満足度 85%以上 (H29 89%) イ・部活動加入率 65%維持 (H29 65%) ・校内あいさつ運動への参加延部活数 55 (H29 52) ウ・地域の奉仕活動や交流活動への参加者数 1000人以上 (H29 1347人)	ア・満足度は、体育祭91% (○)、文化祭78% (△) 文化祭は、例年より取り組み開始が遅く、内容的に安易な方向に流れた傾向があったため、生徒自身の満足度が低くなったと思われる。 イ・部活動加入率は65%で現状維持 (○) 1・2年の加入率は増加したが、3年が減少。年度途中の退部者の増加が気になり。 ・校内あいさつ運動への参加延べ部活数60 (◎) ウ・地域清掃、SGS、部活動交流、食育活動への参加者は延べ1557人。今後も、地域交流・社会貢献に視野を広げられるよう指導を続けたい (◎)
	(2) 学校生活における規律の確立 ア 遅刻指導の取組み イ 保護者と連携した交通安全指導 ウ 清掃指導の徹底	ア・生徒の規範意識の醸成に努め、落ち着いた校内環境を維持する。 ・遅刻防止週間の設定、毎朝の校門指導等、全校体制で遅刻指導に取り組む。 イ・保護者と連携した交通安全指導及び意見交換会を開催し、自転車通学における安全確保と交通マナーの改善へ繋げていく。 ウ・毎日の掃除を徹底し、学習環境を整える。	ア・遅刻者数 10%減少 (H29 1660人) イ・交通安全指導及び意見交換会を年3回実施 (H29 3回) ウ・自己評価「掃除がいき届いている」50% (H29 37%)	ア・遅刻者数は23%減の1285人 (◎) 毎朝の校門指導等を粘り強く実施した。 イ・各学期に1回ずつ実施し、保護者12人参加。状況を掲示板に載せ、教職員が共有。自転車マナーの改善に役立てた (○) ウ・「掃除がいき届いている」は40% (△)であったが、掃除啓発ポスターやモップ・掃除機の配備を行い、環境改善に向けた校内の意識は大きく高まった (○)
3 活力ある学校づくり	(1) 教育内容の充実 ア 国際交流の推進 イ 英語コースの充実 ウ 理数コースの充実	ア・海外の学校とのネット交流授業 ・海外から留学中の大学生等の授業参加 イ・英語4技能を一層伸ばす指導 ・英語検定対策 ウ・生徒の習熟度を踏まえた課題、講習の充実 ・実験を通じた科学的探究能力・プレゼン力の育成	ア・ネット交流授業1回実施 ・留学生等を1人以上招く (H29 1人) イ・英検合格 2級 1人以上 準2級 3人以上 ウ・学校説明会での模擬授業で生徒が中学生を指導する。	ア・ネット授業はできなかった (△)が、修学旅行で台湾の学校との交流に力を注いだ (○) ・関西外大の留学生2人との交流を実施 (○) イ・英検講習を実施し、2級5人合格、準2級10人合格 (◎) ウ・学校説明会において、理数コース生徒を中心に入念な準備を行い、中学生に対して化学と生物の実験を指導 (◎)
	(2) 新しい教育課題への取組み ア 新学習指導要領や大学入学者選抜への対策 イ 働き方改革	ア・新学習指導要領の研究と本校の教育課程の編成について、教務部長を中心として3年計画で準備を進める。 ・新しい大学入学者選抜への対応について、進路指導部長を中心として準備を進める。 イ・掲示板の活用により、職員会議での報告に要する時間の短縮を図る。	ア・教育課程検討の進捗状況 (1年目:指導要領の研究、方向性の検討、情報収集) ・大学入試対策の進捗状況 (英語指導方法の検討など) イ・掲示板活用数 40件 (H29 34件)	ア・新指導要領の情報を収集。学力保障や部活動充実の観点から過当たりの授業時間数を検討し、移行期間の教育課程を決定 (◎) ・1年生で、紙ベースのポートフォリオを開始。業者模試の変更や英語指導教材を検討 (◎) イ・掲示板の活用80件 (◎) 会議の時間短縮や迅速な情報共有に役立てている。
	(3) 教育活動の積極的な情報発信 ア 広報の充実 イ Web ページ等による情報発信	ア・学校紹介パンフレットをリニューアルし、学校説明会、外部説明会、中学校訪問等の充実を図る。 イ・Web ページ、携帯連絡網により、学校の情報を保護者や地域に積極的に発信する。	ア・学校説明会 理解度 90% (H29 90%) イ・Web ページ 更新 190回以上 (H29 190回) ・携帯連絡網 総登録者数 300人以上 (H29 310人)	ア・学校説明会 理解度 98% (◎) ・パンフレットをリニューアルし、外部説明会に8回参加。 イ・Web ページ 更新 227回 (◎) 9月にリニューアルし、阜日より、校長ブログ等を開始。 ウ・携帯連絡網 総登録者538人 (◎) 地震等の緊急対応のため、さらに登録を呼びかける。